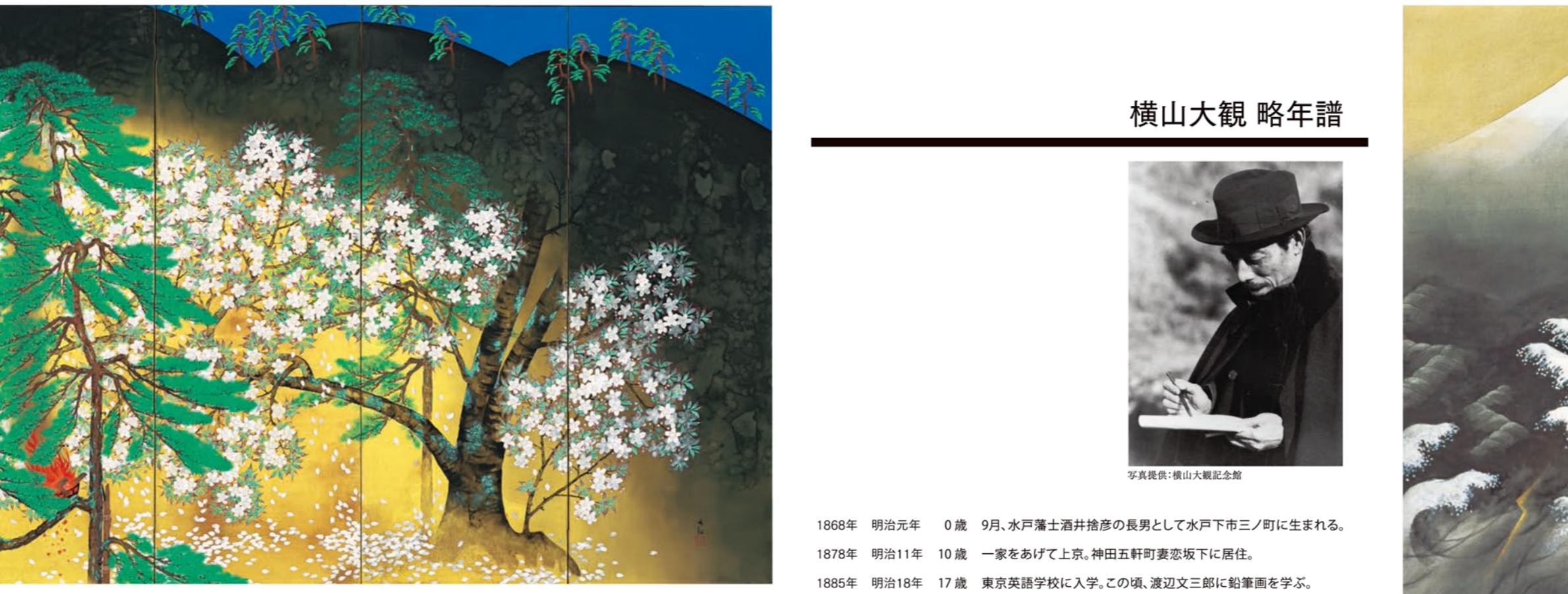
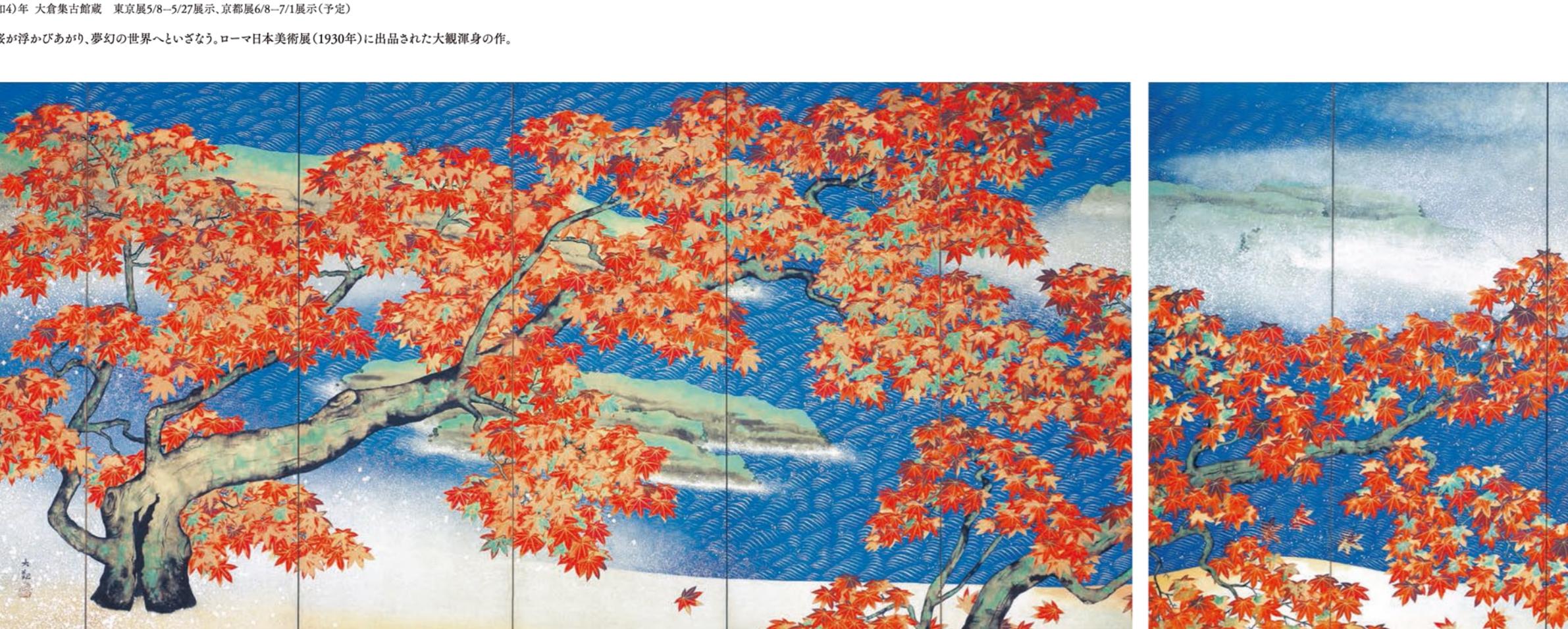


画は人なり。



横山大観 略年譜



1868年 明治元年 0歳 9月、水戸藩士酒井捨彦の長男として水戸市三ノ町に生まれる。
1878年 明治11年 10歳 一家をあげて上京。神田五軒町妻恋坂下に居住。
1885年 明治18年 17歳 東京英語学校に入学。この頃、渡辺文三郎に鉛筆画を学ぶ。
1888年 明治21年 20歳 母方の姻戚横山家を継ぎ、姓を横山と改める。
1889年 明治22年 21歳 東京美術学校第一期生として入学。岡倉天心、橋本雅邦らに学ぶ。
1893年 明治26年 25歳 東京美術学校卒業。この秋、同校予備校の教師となる。
1896年 明治29年 28歳 京都市美術工芸学校教諭を退職。東京美術学校助教授となる。
1898年 明治31年 30歳 岡倉天心らと東京美術学校を辞し、日本美術院創設に参加。
1903年 明治36年 35歳 インドに渡航。以後2年半の間にアメリカ、ヨーロッパを外遊。
1907年 明治40年 39歳 第3回文展《流燈》を出品。
1909年 明治42年 41歳 第3回文展《火吹雪》を出品。
1912年 大正元年 44歳 『大観画集』(芸艸堂)出版。
1914年 大正3年 46歳 日本美術院を再興する。
1923年 大正12年 55歳 第10回再興院展《生々流転》出品。
1930年 昭和5年 62歳 ローマにおいて日本美術展览会を開催。《夜桜》など出品。
1935年 昭和10年 67歳 帝国美術院会員となる。
1937年 昭和12年 69歳 第一回文化勲章を受章。
1940年 昭和15年 72歳 紀元2600年奉祝記念展「山に因む十題・海に因む十題」出品。
1952年 昭和27年 84歳 第37回再興院展《或る日の太平洋》を出品。
1957年 昭和32年 89歳 むさしのに因む日本画展《不二》出品、絶筆となる。
1958年 昭和33年 90歳 2月、逝去。正三位勲一等、旭日大綬章を追贈される。



写真提供:横山大観記念館

展覧会特設サイト
<http://taikan2018.exhn.jp/>

報道関係のお問い合わせ
「誕生150年 横山大観展」広報事務局(共同PR内)
担当:三井
Tel:03-3571-5363
FAX:03-3574-0316
Email:taikan2018pr@kyodo-pr.co.jp
住所:〒104-8158
東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル7階

東京国立近代美術館
住所:〒102-8322
東京都千代田区北の丸公園3-1
Tel:03-5777-8600
(ハローダイヤル8:00~22:00)

京都国立近代美術館
住所:〒606-8344
京都府京都市左京区岡崎円勝寺町
Tel:075-761-4111(代表)

※会期中展示替えがあります。

4/13 [金] 2018 東京国立近代美術館
[千代田区北の丸公園・竹橋]

6/8 [金] 2018 京都国立近代美術館
[京都市左京区岡崎公園]

主催:東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、日本経済新聞社、毎日新聞社
特別協賛:大和ハウス工業



『群青富士』(紫紺) 1914年 大正3年 静岡県立美術館蔵
半期展示

『或る日の太平洋』1952年(昭和27年) 東京国立近代美術館蔵
日本の象徴として描いてきた富士を大荒れの波がとりまく。
17点もの試作を経てこの波の形に決定された。



横山大観 生誕150年

横山大観展

The 150th Anniversary of his Birth: Yokoyama Taikan



横山大観(1868-1958)の生誕150年、没後60年を記念し、
展覧会を開催します。

東京美術学校に学んだ大観は、師の岡倉天心とともに同
校を去り、日本美術院を設立。新たな時代における新たな
絵画の創出を目指しました。西洋からさまざまなものや情報
が押し寄せる時代の中、日本の絵画の伝統的な技法を繼
承しつつ、時に改変を試み、また主題についても従来の定
型をかるがると脱してみました。やがてこうした手法はさ
らに広がりを見せ、自在な画風と深い精神性をそなえた
数々の大作を生み出しました。

本展では、40メートル超で日本一長い画卷《生々流転》(重
要文化財)や《夜桜》《紅葉》をはじめとする代表作に、数々
の新出作品や習作などの資料をあわせて展示し、制作の
過程から彼の芸術の本質を改めて探ります。

総出品数約100点。本画約90点、習作ほか資料約10点を
展覧する大回顧展です。

生誕150年

横

The 150th Anniversary of his Birth:
Yokoyama Taikan

山

《生々流転》1923(大正12)年 東京国立近代美術館 重要文化財
京都展は作品保護のため巻き替えがあります。

全長40メートル超。日本一長い画卷に水の一生の物語を描く。スタートは山間に湧く雲。雲が一枚の渦となり、地に
落ちて流れはじめる。川は周囲の山々や動物、人々の生活を潤しながら次第に川幅を増し、やがて海へと流れ込む。

荒れ狂う海には龍が躍り、水はついに雲となって天へと昇る。そして物語は振り出しに戻るのだ。大観の水墨技法
のすべてがここに注ぎ込まれている。

1章 「明治」の大観

東京美術学校の第1期入学生として絵筆をなぎた大観は、校長の岡倉天心(天心)の
指導のもと、新しい時代の絵画に取り組みました。「理想」や「概念」を絵にすること(いわ
ゆる「理想画」)、輪郭線を描かずに絵画を組み立てること(いわゆる「謙體」)、油絵のよ
うに絵の具を使うこと——若き大観のこれらの取り組みは、後の「日本画」を変えていく力
を秘めていました。

この時期の大観は親友で早世した菱田春草と行動をともにしていました。春草と比較し、
大観は一つのことを突き詰めるのは不得手でしたが、さまざまな表現に同時に挑戦するこ
とができるバイタリティを持っていました。それゆえ、ときに春草よりも大観のほうに、驚くほ
どに時代を先取りした作品が見られることも事実です。また、誰も描かないような、斬新で、
しばしば空飛ぶにも感じる主題を思いつくことも、大観にしかない際立った特徴です。

この章では、これまで展覧会では紹介されてこなかった作品を積極的に交え、大観の特質
について考えます。



《屈原》1898(明治31)年 萩島神社蔵 半期展示

屈原は中国・楚の伝説的詩人。讒言により要職を追われ、ついには汨羅に身を投げ
た。怒りの表情を浮かべ、風にあらがって立つ屈原の姿には、東京美術学校の校長職
を追われた岡倉天心(天心)が重ね合わされている。岡倉を中心に1898(明治31)年
に制作された日本美術院の第一回展覧会に出品された作品。ちなみに、2018年は日
本美術院創立120年の記念年でもある。

大

観

100年ぶりの“発見”

この時期の大観は親友で早世した菱田春草と行動をともにしていました。春草と比較し、
大観は一つのことを突き詰めるのは不得手でしたが、さまざまな表現に同時に挑戦するこ
とができるバイタリティを持っていました。それゆえ、ときに春草よりも大観のほうに、驚くほ
どに時代を先取りした作品が見られることも事実です。また、誰も描かないような、斬新で、
しばしば空飛ぶにも感じる主題を思いつくことも、大観にしかない際立った特徴です。

この章では、これまで展覧会では紹介されてこなかった作品を積極的に交え、大観の特質
について考えます。

100年ぶりの“発見”

《白衣觀音》《彗星》など

新出作品を公開します。

日本一長い画卷、重要文化財

《生々流転》を一挙公開します。

絢爛豪華《夜桜》《紅葉》

同時展示が実現します。

100年ぶりの“発見”

《白衣觀音》《彗星》など

新出作品を公開します。

生誕150年

横

山

路

大

観

展

2章 「大正」の大観

1913年(大正2)年に師の岡倉天心が亡くなると、翌年、大
観は有名無実化していた日本美術院を再興し、若手を率
いる立場に身を置きました。いわゆる「謙體」が批評界に
受け入れられず、大観が辛酸を舐めたのは明治期までの
こと。大正期には、いたずらに新奇を狙う先鋭的な革新主
義者というこれまでの低評価に替わり、東洋の伝統に新
しい感覚を吹き込む実力者といった高評価が定着していき
ました。

この時期の大観の作品には、中国の水墨画や琳派、やまと
絵などの伝統的な技法や構図の影響が明確にうかがえま
す。大観は自身の作品を装飾的な彩色画と水墨画に二分
化し、それぞれに古画に学んだ成果を發揮しました。同時に、
大観は伝統に変化を加えることを忘れません。作品は
「大観」という強い個性をまとうことになりました。

この章では、この時代の代表的な作品を集め、大観が主題
や表現において伝統をいかに継承し、改変したかについて
考えます。

100年ぶりの“発見”

《白衣觀音》《彗星》など

新出作品を公開します。

日本一長い画卷、重要文化財

《生々流転》を一挙公開します。

絢爛豪華《夜桜》《紅葉》

同時展示が実現します。

100年ぶりの“発見”

《白衣觀音》《彗星》など

新出作品を公開します。

生誕150年

横

山

路

大

観

展

3章 「昭和」の大観

この時期、「東の大観、西の栖鳳」という呼称も定着し、大
観は京都の竹内栖鳳と並んで、名実ともに画壇を代表す
る画家になっていました。大観といえばこれ、と誰もが思い
浮かべる作品は、ほとんどこの時期に生み出されたといえ
ます。そして、画壇の実力者たる大観は、戦時下には報国
に奔走しました。

この章では、大観の昭和の戦前から戦中、戦後の作品を
紹介します。代表的な作品をさらに精選し、さまざまな時代
相と作品との間わりや、主題がその時代に持った意味を考
えます。

100年ぶりの“発見”

《白衣觀音》《彗星》など

新出作品を公開します。

日本一長い画卷、重要文化財

《生々流転》を一挙公開します。

絢爛豪華《夜桜》《紅葉》

同時展示が実現します。

100年ぶりの“発見”

《白衣觀音》《彗星》など

新出作品を公開します。

生誕150年

横

山

路

大

観

展

この章では、この時代の代表的な作品を集め、大観が主題
や表現において伝統をいかに継承し、改変したかについて
考えます。

100年ぶりの“発見”

《白衣觀音》《彗星》など

新出作品を公開します。

日本一長い画卷、重要文化財

《生々流転》を一挙公開します。

絢爛豪華《夜桜》《紅葉》

同時展示が実現します。

100年ぶりの“発見”

《白衣觀音》《彗星》など

新出作品を公開します。

生誕150年

横

山

路

大

観

展

この章では、この時代の代表的な作品を集め、大観が主題
や表現において伝統をいかに継承し、改変したかについて
考えます。

100年ぶりの“発見”

《白衣觀音》《彗星》など

新出作品を公開します。

日本一長い画卷、重要文化財

《生々流転》を一挙公開します。

絢爛豪華《夜桜》《紅葉》

同時展示が実現します。

100年ぶりの“発見”

《白衣觀音》《彗星》など

新出作品を公開します。

生誕150年

横

山

路

大

観

展